any

ars nova yamaguchi

「エニー」

Spring 2018
APR.–JUN.
104

特集

「コロガル公園」シリーズ

YCAMで生まれた学び場

コロガル公園、準備中。

any
ars nova yamaguchi
104
Spring 2018 APR.–JUN.
平成30年4月1日発行
発行:公益財団法人山口市文化振興財団
本誌記事の無断転載を固く禁じます。

C O N T E N T S

特集

03 YCAMで生まれた学び場
コロガル公園、準備中。
「コロガル公園」シリーズ

08 any通信
◎アーティストボイス 中井智彦(表現者・歌手・俳優)
◎お先に試写しました 「ザ・スクエア 思いやりの聖域」(リューベン・オストルンド監督)
◎わたしも観ました 「オン・ザ・ミルキー・ロード」村田 敦(ベジタブル喫茶ToyToy店主)
◎読書の窓 皆川博子『炎のように 鳥のように』
◎この日の出来事 5月29日
◎MY TOOL 「手帳」藤井正彦(山口市民会館 館長)

ピックアップイベント

10 山口情報芸術センター
YCAM Film Factory vol.4
三宅唱+YCAM 新作インスタレーション展
「ワールドツアー」
日常から「映画」の存在をあぶり出す!

「YCAMスポーツハッカソン2018」+
「第3回 未来の山口の運動会」
まだ見ぬスポーツとの遭遇の瞬間を!

中原中也記念館
企画展I「中也この一篇——「帰郷」」
中也の「帰郷」から読み解く「ふるさと」とは?

山口市民会館
影絵音楽団くぷくぷ「きんぎょがにげた」
ガムランの音色に合わせて、歌いながらきんぎょをさがそう!

ベルリン交響楽団 山口公演
日本でも親しまれるオーケストラ、山口初公演!

13 山口・島根連携プロジェクト
ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2018

14 イベントカレンダー 4〜6月
INFORMATION

any(エニー)とは、ラテン語の「新芸術(=ars nova)」と「山口(yamaguchi)」の頭文字を組み合わせた言葉です。

特集
「コロガル公園」シリーズ

YCAMで生まれた学び場

コロガル公園、準備中。

すべり台やジャングルジムなどの遊具が揃った遊び場はどこにでもあるかもしれないけど、発見した遊びをみんなで共有することができる、自分たちで遊び場を変えることができる、そんな楽しくてわくわくする遊び場は“コロガル公園”だけ。子どもたちが夢中になって遊んだあの大人気企画「コロガル公園」シリーズが、この夏YCAMに戻ってきます!! まだまだ準備中と知りつつも、はやる気持ちを抑えきれず、企画に携わる教育普及担当の菅沼聖さん、山岡大地さん、田吹東悠さんにお話を聞いてきました。

「コロガル公園」シリーズ 2012 ▶ 2016

コロガルは、ルールは変えられるんだということをしっかり子どもたちに感じてもらいたい

コロガル公園

会期: 2012年5月19日〜8月12日
会場: 山口情報芸術センター　スタジオB

YCAMの教育普及の活動を俯瞰的に紹介する展覧会「glitchGROUND、メディアアートセンターから提案する新しい学び場環境」のなかのプログラムの一つとして発表。約3カ月の会期中7千人以上の人々が訪れ大盛況となった。不定形な床面、照明や音響、ネットワークなどのメディアテクノロジーが埋め込まれた環境、子どもたちがアイディアを提案する「子ども遊び場ミーティング」の開催など、次のシリーズにも引き継がれていく。

2012

コロガルパビリオン

会期: 2013年7月26日〜12月1日
2014年8月1日〜8月31日
会場: 山口市中央公園

大小2つの円筒形の建築から構成された空間を屋外に設置。設計は、建築ユニット「assistant(アシスタント)」。2013年は約4カ月の会期中に、4万7千人ほどの子どもたちが訪れ、大盛況を博す。会期終了直前に、子どもたちの署名活動が発生し、翌年、2014年にも1カ月の期間限定で再開する。2014年、第8回キッズデザイン賞の審査委員特別賞を受賞。

2013 2014

コロガル公園 in ネイチャー

会期: 2014年7月19日〜9月28日
会場: 札幌市資料館

音楽家・坂本龍一がアートディレクターを務めた札幌国際芸術祭にて発表。建築家の五十嵐淳とYCAMとの共同制作によって発表。札幌資料館前の森のなかに設置された屋外公園として行った。

コロガルガーデン for LIL KIDS

会期: 2015年4月29日〜5月3日
会場: 東京・伊勢丹新宿本店本館6階催事場

株式会社三越伊勢丹が展開する子ども向け教育プロジェクト「cocoiku(ココイク)」のために共同開発を行う。未就学児童でも体験できるようにアレンジし、伊勢丹新宿店の催事場にて発表。

2015

コロガルガーデン

会期: 2016年6月18日〜9月4日
会場: 山口情報芸術センター
スタジオB、ホワイエ

2015年に東京で発表した「コロガルガーデン for LIL KIDS」を大幅に改良し、様々な機能を追加したYCAMバージョンとして発表。スタジオBには、大小異なるサイズのブロック群が、ホワイエには緩やかな流線形を描く巨大なすべり台が出現。夏休み期間中は、毎日長蛇の列ができるほどの好評を博した。

2016

「コロガル公園」シリーズは、どのような経緯で誕生したのでしょう？

菅沼　YCAMの教育普及では、開館当初から身体を通じた学びの場としてオリジナルのワークショップを作り、実施してきました。ですが1回の体験時間は3〜4時間ぐらいで、参加できる人数も基本15人で終わってしまう。そこをもっと拡張して3カ月間開く学びの場を作るとしたらどういうものになるだろうと考えて作ったのが「コロガル公園」シリーズです。2012年に初めて発表して以降2016年までに5シリーズを作りました。

遊び場である“公園”をモチーフにすると決まったとき、教育普及メンバーで現状の公園をリサーチしに、近所の公園からもっと広いアスレチックがあるところまで色んな場所を見に行きました。規制がガチガチのところもあれば、子どもたちの主体性を大事にしているところもある。公園にも色々グラデーションがあることが分かりました。その対極の一つにあるのが「プレーパーク」というデンマークから始まった公園です。そこでは穴を掘って火をおこしてもいいし、ガレキ置き場から木の板を持ってきてすべり台を作ってもいい。そこは自分たちで管理をして安全を判断して運営していく場所。コロガル公園はまさにこの「プレーパーク」の思想を土台にしています。もう一方の対極にあるのが、赤い文字で注意書きがびっしり書かれた看板のある公園で…。

田吹　「騒がない」「ボール遊びしない」とかですよね。

菅沼　無茶言うなよ、全然遊べないじゃないか、と思いましたね(笑)。公(おおやけ)の園(その)と書いて「公園」なんですけど、誰のものでもないし誰も触れない空間が都市の中にできあがってしまっている。場としては何をやっても良さそうなのに、実は制度とか社会的な圧力がそこにはあるんじゃないか。この原因は何なんだろうと。規制やルールがない＝無法地帯なのではなく、何が危険でどこまでが安全なのかを自分たちで考えルールを作っていく。コロガル公園ではむしろそのルールは変えられるんだということをしっかり子どもたちに感じてもらいたいと思います。

遊びの中で小さな失敗や経験ができる場所

参照された「プレーパーク」と「コロガル公園」はどこが違うのでしょう？

菅沼　最大の違いは照明や音響、センサーといった“メディアテクノロジー”をそのなかに埋め込んだ遊び場だということです。プログラム一つでたとえば照明をパッと変えたり、センサーに反応して音を鳴らしたり、子どもたちの要望に柔軟に即座に応えることができます。この公園をもっと楽しい遊び場にするにはどうしたらいいか、そのアイディアを子どもたちから出してもらう「子ども遊び場ミーティング」を会期中に行っています。そこで出たアイディアがすぐに実現される、その様子を観た子どもたちは、社会に自分が働きかけているんだという実感がわいてくる。実際に子どもたちを観察すると、その感覚が伝播して、学びの実践共同体のようなものがコロガル公園のなかに広がっていくのを感じました。つまり一つの模擬社会がそこに現れる。コロガル公園は、社会を模した小さな実験・訓練ができる場所であり、遊びの中で小さな失敗や経験ができる場所だといえます。

プレーリーダーは記録・観察をしている人でもあり、人と人とをつなぐ人でもある

「コロガル公園」シリーズは順番待ちになるほど人気があります。なぜこんなにも人気が？

菅沼　1回目の2012年は、まだ認知されていなかったのもあり、とくに平日はガラガラな日も多くありましたよ。でも夏休みくらいからですかね。徐々に増えてきて。

田吹　認知度が高まったのもあるけど、単純に子どもたちは力いっぱい体を動かしたくて、それができるのがコロガル公園だったのかも。近くの公園では遊具がなかったり、あっても十分に力を出し切れないこともある。コロガル公園は小さい子なら小さい子なりの、大きい子なら大きい子なりの力をしっかり出せるようにきちんと設計されているのだと思います。

山岡　近所の子たちのたまり場になっていたのもありますね(笑)。「YCAMのコロガルに何時に来てみんなで遊ぼう!」と言い合える場所にもなっていった。

山岡さんや田吹さんが担われていた「プレーリーダー」とは、どんな存在なのでしょう？

田吹　もちろん安全管理も担っていますが、子どもたちがどういう遊びをしているのかをよく観察し記録します。プレーリーダーはコンピューターと似たような働きをする人たちなのではないかと思っていて、その人に何か聞けば返ってくる、またその人が核になり色んな人とのコミュニケーションが生まれていく。たとえば、昨日自分が発明した遊びを、次の日来たら、ほかの子がやっている様子を目撃する。プレーリーダーが記録した遊びをほかの子へ広げていくことで、その子は自分が起こした行動が社会に影響を与えたと実感することができる。そこでもプレーリーダーの存在は大きいです。

山岡　プレーリーダーは記録・観察をしている人でもあり、人と人とをつなぐ人でもある。

理想どおりにはいかず、大変なこともあったのではないですか？

田吹　子どもたちは順序だって話さないし、昨日やりたいと言っていたことを次の日にはやりたくないと言い出したり、喧嘩もよくあって、幼稚園の先生のような気分になるときも(笑)。でも、そういったやりとりをとおして、彼らは自分たちで動こうとする力を得てくれていたんだろうなとも思います。そんな子どもたちとどう向き合っていけばいいのか、全然答えがでず、毎日遅くまでプレーリーダーとスタッフとで話し合っていました。

山岡　一部の子どもたちのやりたい遊びをほかの人もたくさんいる場でどう成立させていくか。子どもたちのなかでも僕たちのなかでもどう折り合いをつけていけばいいか悩みました。対話で解決するものでもないし、一体どうしたらいいかと。大変でしたけど、張り合いはありました。

7月から再び「コロガル公園」が始まりますが、プランは固まっていますか？

菅沼　まだまだ準備中で、教育普及メンバーはもちろん、ほかの企画担当者や技術スタッフ、外部の建築家など様々な人たちとアイディアを練りながら進めている

観た！聴いた！みんなのレビュー

◎YCAMが各々のプロジェクトに取り組んでいる意図・狙いが分かり、良かった。（50代女性　「HELLO,YCAM!」より）
◎それぞれの「中也の詩」との出会いに触れられて温かい気持ちになりました。（20代女性　「私が選ぶ中也の詩」より）
◎印象として、会場のノリのようなものは、Human DJ が AI を誘導しているようにも感じた。（30代男性　「AIDJ vs HumanDJ」より）
◎テクノロジーで肉体表現の幅が広がるのはワクワクしますね！（20代女性　「The Other in You―わたしの中の他者」より）

わかる！キーワード

【プレーリーダー】　子どもたちが遊び場で生き生きと遊ぶことを補助し、そのための環境を作る人を指す。子どもの興味や関心を引き出すよう、いつも遊び場を整備し、つねに変化する遊び場の状況に応じて安全管理に注意を払いながら、子どもが遊びを通して成長できるように促す役割を担う。

予測不可能な行動をするのが子どもたち

ところです。しかも同時期にアーティストの“exonemo(エキソニモ)”をキュレーターに迎えた展覧会がオープンします。アート好きだけが観る展覧会ではなく、コロガル公園の子どもたちが回遊してくるような空間をexonemoは考えてくるかもしれないし、僕たちはコロガル公園を作りながらその横にはアート作品の展覧会があるということを意識して計画を考えないといけない。2つを融合させるのか、分断させるのか。

分断もありですか？

菅沼　あえて分断するという手もあります。融合であれば、コロガル公園と展覧会をつなぐ道のようなものを僕たちがデザインすることになるだろうし、逆に分断させ距離を置くことで、勝手にコロガル公園に来た子どもたちが融合させてしまうかもしれない。予測不可能な行動をするのが子どもたちなので(笑)。これまでにもYCAMの展覧会で、子どもたちが作品に対して予想しなかった見方をすることがありました。そういったことが実は作家の次の創作につながることがある。

山岡　exonemoの展覧会では、作品の一つに「古墳」を作るという話があります。コロガル公園で遊んでいた子たちがその作品を観て「お墓」だと分かったとき、そこでいきなり祈り始めるかも。

田吹　やりそうです(笑)。お祈りごっことか、お祈り祭りとか。

菅沼　祈るという行為が遊びになり、そこに大人が引きずり込まれるかもしれない。合理的な積み立て式の考え方ではなかなか発生しないようなことが起こることで、そこから大人も学ぶことがあるんじゃないかと思います。

田吹　遊びって全然合理的じゃないんですよ。やり方に正解がないからこそ頭と身体をフルに使って試行錯誤する。コロガル公園ではそんな子どもたちの様子を間近に感じられて、心地よかったです。

photo: 田邊アツシ

[左] 田吹東悠　TABUKI Ayu

1991年生まれ。山口県出身。山口大学在学中よりYCAMのサポートスタッフとして、「コロガル公園」シリーズをはじめとする教育普及プログラムの補助に従事。2017年YCAMスタッフに着任。小中学校での取り組みのコーディネートや、サポートスタッフの指導／育成などの教育普及事業全般を担当。

[中央] 菅沼 聖　SUGANUMA Kiyoshi

1982年生まれ。愛知県出身。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)卒業後、2009年にYCAMのスタッフに着任。オリジナル・ワークショップの開発やファシリテーション、「コロガル公園」シリーズの制作など、教育普及事業全般および地域資源の活用に関する研究開発プロジェクトの企画を担当。

[右] 山岡大地　YAMAOKA Daichi

1987年生まれ。島根県出身。山口大学在学中よりYCAMにサポートスタッフとして関わる。2013年の企画「コロガルパビリオン」でプレーリーダーを経験。2014年YCAMスタッフに着任。オリジナル・ワークショップのファシリテーションや、「コロガル公園」シリーズの制作などを中心に、教育普及事業全般を担当。

アート作品を観るとき、大人は「誰が作って、どういう意味があって」と順序立てて考えてしまうけど、コロガル公園のような非合理的で混沌とした場を体験した後は、そうじゃない見方ができるかもしれない。新しいものの見方を身体から得るという経験を、もっと大人にもしてもらいたいと感じていたので、exonemoの展覧会とコロガル公園の間に、その混じり合いが出てくるのではと、わくわくしています。

大切なのはどうやって続けていくか

「コロガル公園」以外にも様々な事業をされていますが、どんなことを大切にされていますか？

山岡　これまで1年に1・2回しかできていなかったワークショップを定期的に行おうと、昨年から始めた「未来の山口の授業」では、“味覚”をテーマにしたものや、バイオテクノロジーを扱った新作ワークショップに加えて、「感覚アスレチック」「コトバ身体」などおなじみのワークショップも実施します。ほかにはYCAMをツアー形式で見ていただく企画も考えています。施設見学をしながらYCAMが開発したツールを色々体験できる仕組みになっています。これらの体験を通じて、YCAMの考えや理念を感じてほしいと思います。

菅沼　いま大切なのはどうやって続けていくか。YCAMでは常に学校のような学びと創造性が体験できるような状況を作りたいと思っています。コロガル公園もその一つで、ずっと続けることで何かおもしろい人材が生まれる土壌を作ることができる。文化を作るというのはおそらくそういうことを指すのだと思います。100年計画でしっかりと考えていかないと意味がなく、単発のイベントだけを助成金だのみで、そのときだけのお金の回りかたでやっていくと、長いスパンでみたときに何も形成していないことになってしまう。よく考えられずに作られた規制やルールに従うのではなく、規制する方もされる方もしっかりと考え、状況によっては自分たちで変えてしまえるような社会のほうが豊かです。コロガル公園がずっとあることで、その理念が子どもたちから、そしてその親たちから社会全体まで共有できるようになる。山口で50年以上コロガル公園を続けていくためにはどうすればいいのか、考えていかなければいけません。

「コロガル公園コモンズ」
2018年7月21日(土)～10月28日(日)
会場:山口情報芸術センター　スタジオB
[料金]無料

exonemo×YCAMキュレーション
「メディアアートの輪廻転生」
コロガル公園と同時期に開催する展覧会。こちらもお楽しみに！
2018年7月21日(土)～10月28日(日)
会場:山口情報芸術センター　ホワイエ ほか
[料金]無料

PRESENT

YCAMオリジナルグッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号(Ⓐの場合はサイズも)を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、4月30日(月・休)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

Ⓐ YCAMオリジナルTシャツ(3名)
サイズをS、M、Lからお選びください。
※色はお選びいただけません。

Ⓑ YCAMオリジナルてぬぐい(3名)
※色はお選びいただけません。

【あて先】〒753-0075　山口市中園町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.104 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216　e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

観た！聴いた！みんなのレビュー
◎布の概念を超えるもので面白かったです。(30代女性　「布のデミウルゴス―人類にとって布とは何か?」より)
◎色々な写真を組み合わせた「どうにも僕の意思とは…」が特に気に入った。(30代女性　「山口盆地考2018.....吹き来る風が.....」より)
◎友達の大切さが子どもでも分かるような内容で、とても楽しめました。(劇団うりんこ「ともだちや　あいつもともだち」より)
◎色々なジャンルの素晴らしい曲が聴けて本当に幸せなひとときでした。(20代女性　「山口きずな音楽祭vol.9」より)

any通信

寒い冬があけ、
春一番のお便りは？

中也の詩が色とりどりの声にのせて蘇る。

黄木 透（テノール）

関口将史（チェロ）

豊田耕三（アイリッシュフルート）

中村裕美（作曲・ピアノ）

詩の朗読を好み、よく人前で披露していたという中原中也。そんな中也の誕生日を祝う、毎年恒例のイベント「空の下の朗読会」を中原中也記念館の前庭で開催します。第1部は自由参加の朗読会。好きな詩・オリジナルの詩などお気に入りの詩を携え、集った仲間たちと朗読をとおして中也に親しみましょう。第2部はゲストミュージシャンによるミニライブ。今年は、詩と音楽のコラボ集団“VOICE SPACE”から4名が登場します。うららかな春空のもと、中也の詩がどんな音楽にのって響き渡るのか楽しみです。また、同日夕方からは、別会場で中也賞の贈呈式や記念講演も行われます。ぜひ、こちらもご参加ください。

昨年の「空の下の朗読会」の様子

中原中也生誕祭「空の下の朗読会」
2018年4月29日（日・祝）
12:30〜15:00（詩の朗読希望者は12:00より受付）
会場：中原中也記念館　前庭
（雨天の場合、湯田温泉ユウベルホテル松政）
［ゲスト］VOICE SPACE
［料金］無料（当日は、記念館への入館料も無料）

第23回中原中也賞贈呈式＆記念講演
2018年4月29日（日・祝）
16:00〜16:30　贈呈式
17:30〜18:30　記念講演
「中原中也の愛」（太田治子／作家）
会場：湯田温泉ユウベルホテル松政
［料金］無料

YCAMが15周年を迎えます。

開館15年目を迎える今年は、子どもたちに大人気だったコロガル公園や未来の運動会といったおなじみの企画から、新たな表現を探るシネマや新作展覧会といったイベントが盛りだくさん。お薦めは秋に行われる「国際ラボミーティング」。国内外のラボからゲストを招くシンポジウムを中心に、ワークショップ、パフォーマンス、映画上映、さらには同時期に開催中の展示とも連携する、まさにYCAMがギュギュっと凝縮された3日間なのです！ 今年も要チェックですよ。

ARTIST VOICE アーティスト ボイス

中井智彦（表現者・歌手・俳優）

詩人・中原中也に魅了され、中也を題材にしたパフォーマンスを各地で行っている歌手の中井智彦さん。昨年12月25日、山口市民会館で開催された「山口きずな音楽祭」にLE VELEVETSや辰巳真理恵さんとともに出演し、「中也をうたう」をテーマに素晴らしいステージを披露されました。中也生誕の地である山口でのコンサートは中井さんにとってどのような経験となったのでしょう。

きっと中也も笑いながら観てくれたと思います。

―藝術を衰褪させるものは、固定観念である。中原中也の論文「藝術論覚え書」の一節です。中也の詩はもちろんのこと、この論文にある藝術への熱い想いに感化されました。「中也を演じたい」という想いから、これはもう自分で創るしかないと劇団四季を退団し、作曲・構成・演出を手がけた独り舞台を一昨年発表しました。中也の詩を読めば読むほど、自然とメロディが湧き上がってくるんです。中原中也記念館では貴重な資料も見せてもらい、新たな刺激を受けました。昨年は生誕110周年・没後80周年の節目。亡くなった鎌倉での自主公演を決めた後に「山口きずな音楽祭」のお話もいただき、念願叶って中也の故郷・山口でも中也を演じることができました。中也が暮らした故郷の風を感じ、中也が歩いた道を歩き、中也として舞台に立つ。とても幸せな時間でした。きっと中也も笑いながら観てくれたと思います。また山口で舞台に立てるよう頑張ります。

山口きずな音楽祭 vol.9「中也をうたう」
2017年12月25日
会場：山口市民会館　大ホール

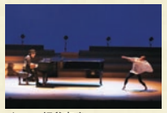


photo: 畑谷友幸

毎年クリスマス時期に山口市民会館で行われている「山口きずな音楽祭」。9回目となったコンサートでは、4度の出演を果たしいまやこのコンサートに欠かせない存在となっている男性ボーカル・ユニットLE VELEVETSのほかに、ソプラノ歌手・辰巳真理恵、元劇団四季のメンバーであり歌手の中井智彦が初登場。「中也をうたう」をテーマに山口のクリスマスを華やかに盛り立てた。なかでも、中也を題材に各地でパフォーマンスを行っている中井はダンサーとともに出演し、中也の詩がもつ魅力を音楽とダンスで表現。その新鮮な感覚に、多くの聴衆が魅了された。

中井智彦　NAKAI Tomohiko

神奈川県出身。東京藝術大学卒。元劇団四季。2007年「レ・ミゼラブル」でデビュー。圧倒的な表現力と歌唱力で舞台やライブを中心に活動中。16年に企画構成・演出・作曲を手がける独り舞台「詩人・中原中也の世界」を発表。主な舞台に「オペラ座の怪人」（ラウル）、「美女と野獣」（野獣）、「ひめゆり」等。

観たい！聴いた！みんなのレビュー

◎たくさんの作品の中也を見ることができ、感動です。（30代女性　「コミックのなかの中也」より）
◎これから来年2月の本公演まで、舞台がどのように作られていくのか興味深いです。（「イスラエル・ガルバン　オープンスタジオ」より）
◎取り組みが網羅的に分かる機会でよいと思いました。（40代男性　「HELLO,YCAM!」より）
◎子どもが最初から最後までとても楽しそうな表情で観ていて、私も嬉しくなりました。（劇団うりんこ「ともだちや あいつもともだち」より）

©2017 Plattform Produktion AB / Société Parisienne de Production / Essential Filmproduktion GmbH / Coproduction Office ApS

お先に試写しました

「ザ・スクエア 思いやりの聖域」

（2017年／スウェーデン＝ドイツ＝フランス＝デンマーク／151分）
［監督・脚本］リューベン・オストルンド　［出演］クレス・バング、エリザベス・モス、ドミニク・ウェスト、テリー・ノタリー

タイトルの「ザ・スクエア」は地面に正方形を描いた参加型アートで、その中ではすべての人が平等に権利を持ち、公平に扱われる、「思いやりの聖域」として登場します。本作は、スウェーデンの現代美術館を舞台に、順風満帆に生きるキュレーター、クリスティアンが、持ち前の正義感によって自らの人生を狂わしていく様子をユーモアたっぷりに描いた、第70回カンヌ国際映画祭の最高賞・パルムドール受賞作品です。物語の鍵となる出来事はふたつ。クリスティアンが盗まれた携帯と財布を取り戻すためにチラシを配ったこと。そして、彼が企画中の展示「ザ・スクエア」をPRするために動画を流したこと。どちらも共感を呼ぶ感傷的な内容ではなく、物議を醸すようなエッジの効いた内容にしたことで、当事者たちの予想をはるかに超えて世間の怒りを買うことになります。

他人に無関心でメディアに操作されがちな現代社会に一石を投じる、傑作悲喜劇をお楽しみください。

村岡由佳子（YCAM シネマスタッフ）

2018年6月22日（金）より上映
※詳しくはお問い合わせください。
会場：山口情報芸術センター　スタジオC
［料金］一般 1,300円
any会員・特別割引・25歳以下 800円

わたしも観ました

YCAMで観た映画作品についてシネマの常連・村田敦さんに感想をお聞きしました！

観た作品	「オン・ザ・ミルキー・ロード」
	（2016年／セルビア＝イギリス＝アメリカ／125分） ［監督・脚本・出演］エミール・クストリッツァ ©2016 LOVE AND WAR LLC
観た人	村田 敦（ベジタブル喫茶ToyToy店主）
観た日	2018年1月21日、27日

監督自ら演じるコスタが巨大かぼちゃを2個抱えて踊るシーンが笑える。これだけで観る価値あり。意外と多い「映画の変なダンス」に着目して観ると映画がもっと面白くなる！ そして笑ってばかりはいられない壮大な愛のストーリー。ラストで叩きつけるように登場するタイトルには思わず涙が。

読書の窓

『炎のように 鳥のように』
作者名：皆川博子
発行年：1993年
出版社名：偕成社

壬申の乱を背景にした歴史児童文学。とかく弟大津の引き立て役にされがちな草壁王子と、奴の身分に落とされた孤高の少年（架空の人物）の二人が主人公です。生活の細部をリアルに描く筆力と人間観が大好きで、図書館で借りて全文書き写し、のちに偕成社文庫を買い、ついには神田の古書店で単行本をゲットしました。

和木浩子（山口市立中央図書館 職員）

この日の出来事

5月29日

YCAMを訪れた時のキャロライン・ケネディさん

突然のアメリカ駐日大使の訪問

いまから2年前の2016年5月29日、突如YCAMに現れた当時のアメリカ駐日大使キャロライン・ケネディさんとご主人。オバマ前大統領の歴史的な広島訪問の直後に、お忍びで山口を旅行されたようで、この日レストランスペースで行われていたプロジェクト「YAMA KITCHEN」ではかのお客様と一緒にお茶やお菓子を召し上がっていました。そのあとでスタッフがお声かけして、館内をご案内することに。子どもたちを対象に開催していたワークショップや半月後にオープンを控えていた子どもたちに大人気の公園「コロガルガーデン」の準備の様子などをご覧いただきました。YCAMのことはアメリカの友人を通じて知っていたとのこと。スペシャルなお客様のサプライズ訪問にYCAMスタッフはドキドキの1日でした。

My TooL

「手帳」

私が手帳を持ち始めたのは、社会人になってからのことでした。最初の頃の手帳がどんなものだったか記憶が定かではありませんが、電子手帳を使ったときのことはよく覚えています。備え付けペンで画面上に字を書くと、文字変換されるので、便利でしたが、瞬時に見たいところに行けないストレスと、少し重かったことを記憶しています。それから山口県民手帳に変え、統計資料編、名簿編、生活編とあり、重宝し長年愛用し続けてきました。昨年から、県民手帳の倍の大きさの手帳を書店で購入するようになりました。若者のようなスマホ利用は自分には向かず、いまの手帳が一番ぴったりきます。

藤井正彦（山口市民会館 館長）

観たい！聴いた！みんなのレビュー

◎AIDJがだんだん可愛らしく感じるのが不思議で楽しかったです。（30代男性　「AIDJ vs HumanDJ」より）
◎ダンスを360°全方位から見てみたいと思うことはあったが、自分自身がその中心から見られるのは面白い。（「The Other in You―わたしの中の他者」より）
◎順路の地図があるのが散歩しているようで面白かった。（20代女性　「中原中也の散歩生活」より）
◎着眼、着想、展示が創造的で今後も期待します。（70代以上男性　「布のデミウルゴス―人類にとって布とは何か？」より）

山口情報芸術センター（YCAM）

http://www.ycam.jp/

先行チケット発売情報 早チケ 6月9日発売!

「不思議の国のアリス」

2018年8月8日（水） 19:00開演
9日（木） 13:30開演／17:00開演
会場：山口情報芸術センター スタジオA

photo: 富川舞子

「からだであそぼ」の出演などで子どもたちにも人気のダンサー・振付家の森山開次さんと、人気実力をかねそなえた、魅力あふれるダンサー&スタッフ陣が「アリス」の世界に勢ぞろい! 世界中を魅了してきたナンセンスで、ユーモアあふれる冒険のものがたりが、美しくて楽しくて、ちょっと怖い…こどもとおとなのためのダンスになります。6月9日には演出・振付を担当される森山開次さんがワークショップで一足先に山口に登場! からだ全部を使っておどる楽しさを感じましょう!

［チケット情報］
一般発売　6月9日（土）～
［料金］全席自由
前売　おとな　3,000円 ほか
※ワークショップやチケット料金等詳しくはお問い合わせください。

イベントレポート

YCAMオープンラボ2017
HELLO,YCAM!

photo: 古屋和臣

YCAMでは昨年12月15日～17日に初となるオープンラボ「HELLO,YCAM!」を開催。多岐に及ぶYCAMの取り組みを、幅広いバックグラウンドの人々に向けて紹介しました。前夜祭として、人工知能（AI）のDJと、今最も注目されているDJ "tofubeats" と "Licaxxx" が、バトル形式で競演、山口の夜を沸かせました。翌日からは、現在進行中のプロジェクトを紹介するトークセッションを軸に、展示やプチワークショップ、ポップアップショップなど、館内のいたるところで楽しみながらYCAMを感じられる仕掛けの目白押し。イベント期間中には多くの方々が来館され、「YCAMのことをよく知るきっかけになった」「とても刺激的だった」との感想が寄せられ、好評のうちに幕を閉じました。

YCAM Film Factory vol.4

三宅唱+YCAM 新作インスタレーション展「ワールドツアー」

2018年4月21日（土）～5月27日（日）　11:00～19:00
会場：スタジオB

日常から「映画」の存在をあぶり出す!

YCAMが2015年から進める映画制作プロジェクト「YCAM Film Factory」。プロジェクト第4弾として、三宅唱監督を招聘しての撮影がここ山口にて行われました。そしてこの度、新作映画のお披露目に先駆けて、三宅監督とYCAMの共同制作によるインスタレーション作品「ワールドツアー」を発表します。三宅監督のライフワークともいえる、スマートフォンだけを使って記録し編集したドキュメンタリー映像作品『無言日記』。今作品で発表される映像は、『無言日記』と同様の手法で撮影された、三宅監督をはじめとした複数の撮影者による映像の数々です。それらの映像を、さらに三宅監督が再編集することで、撮影者の視点でもなく編集者（三宅監督）の視点でもない、「誰のものでもない視点」がそこに生まれます。このインスタレーション作品を通して、当たり前のように移りゆく日常に目を向け、世界をもう一度新しい視点から見つめ直す体験ができるでしょう。

わたしはココに注目する!
作品の中に散りばめられた、見慣れたはずの山口の風景を探してみてください。私たちの日常は狭いようでいて、無限の世界が広がっているのかも…と思わせてくれる作品です。

料金 ▌ 無料

「YCAMスポーツハッカソン2018」+「第3回 未来の山口の運動会」

2018年5月4日（金・祝）～6日（日）
会場：スタジオA ほか

まだ見ぬスポーツとの遭遇の瞬間を!

今回で3回目の開催となる「YCAMスポーツハッカソン」と「未来の山口の運動会」。スポーツハッカソンでは、開発（デベロップ）と実践（プレイ）を繰り返しながら、アイディアとテクノロジーを詰め込んだ新しいスポーツを参加者とともにつくっていきます。最終日には、スポーツハッカソンでつくられた生まれたてのスポーツを、大勢の参加者と「未来の山口の運動会」の中で実際に競技します。昨年11月に行われた前回イベントでは、たくさんの新たなスポーツが誕生しました。今回はどのような新しいスポーツとの出会いが待っているでしょうか。スポーツや運動会の可能性をみんなで探っていきましょう。

photo: 山中慎太郎（Qsyum!）

わたしはココに注目する!
今回はYCAMともゆかりの深いゲストアーティストも参戦予定。常に創造性に向き合うアーティストからの刺激によっていままで以上にとんでもないスポーツが飛び出すかも!? まだ見ぬ新しい競技との出会いの瞬間をぜひ。

YCAMスポーツハッカソン2018
［料金］3,000円　［定員］30名（要申込、応募多数の場合は抽選）　［対象］中学生以上

第3回 未来の山口の運動会
［料金］無料（要申込）　［対象］小学生以上　※申込方法等詳細はお問い合わせください。

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■特別割引：シニア（65歳以上）、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■いずれの公演も特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展I

「中也、この一篇——「帰郷」」

2018年4月18日（水）～7月29日（日）

中也の「帰郷」から読み解く「ふるさと」とは?

2016年から始まった「中也、この一篇」は、中也の代表作をじっくりと味わうシリーズ企画です。第1回目の「サーカス」に続き、第2回目は、中也がふるさとをうたった詩「帰郷」を紹介します。
この作品は1927年末から翌年初め、東京で生活していた中也が、山口へたびたび帰省していた頃に書かれたといわれています。離れてから身を置く〈故里〉は懐かしいばかりではなく、疎外感を抱く場所でもありました。その複雑な思いを、中也はこの詩のなかでどのように表現したのでしょうか。

中原中也 詩集『山羊の歌』

本展では、中也を育んだ山口の風土や、フランス文学からの影響、音楽との関わりなど、様々な角度から作品を読み解きます。

わたしはココに注目する!
展示室には、中也の友人・内海誓一郎が曲をつけた「帰郷」が流れます。中也が「之は自分の故郷の姿だ」と叫んだという、その旋律に耳を傾けながら、詩の世界にひたってみてください。

入館料 ▌ 一般 320円（270円）／大学生 210円（162円）
※あわせてテーマ展示もご覧いただけます。　※18歳以下、70歳以上は無料　※（　）内は20人以上団体料金

中也検定 これであなたも中也通?!

「帰郷」詩碑

Q. 〈これが私の故里だ／さやかに風も吹いてゐる（中略）あゝ　おまへはなにをして来たのだと……／吹き来る風が私に云ふ〉という部分がよく知られている詩「帰郷」。この詩が制作された1928（昭和3）年頃、中也はある目的でたびたび帰郷していました。当時は東京から山口まで汽車で丸一日かかります。そこまでしてでも帰郷したその目的とは一体何でしょうか。

1 病気の父の見舞い
2 就職活動
3 仕送りの増額交渉

答えは14ページ

第23回 中原中也賞

石橋では
赤獅子と白獅子が並んでいて、
沢では天狗が下着を洗っている。
山からは、一匹の熊が降りてくる。
私は家に住んでいた。
僧侶が家を訪ねてきたとき、
前に提げていた小さな桐箱を見せてもらった。
私の手で包める程の大きさの箱の中には、
小さな青い海が波打っている。
海底にへばりついていた白い海獣は、
僧侶がのぞきこんで陰ができると
泣きながらその場を移動してしまった。

（『狸の匣』所収「石橋」より抜粋）

【受賞者コメント】

マーサ・ナカムラ
MASA NAKAMURA

会社員生活で時間的余裕のない中で、詩集を刊行するにあたり十分な時間を確保できず、刊行を諦めようと思ったことが何度もありました。それでも刊行することができたのは、編集者や関係者の方々のご尽力があったからです。
昨年10月、石川県金沢市に行った際、中也の詩「サーカス」にインスピレーションを与えたという大欅に出会いました。思いがけず中也がこの世界に生きていた証を見た気がして、とても不思議な気持ちになりました。中也の「サーカス」の詩のような、心に残る詩を書いていけたら幸せです。本当にありがとうございました。

1990年生まれ。埼玉在住の会社員。2017年、デビュー作となる『狸の匣』を思潮社より刊行。同作品が全国より集まった174点の応募・推薦詩集の中から第23回中原中也賞を受賞する。

受賞詩集
『狸の匣』（思潮社）

観た!聴いた!みんなのレビュー
◎一人ひとりのキャラクターがとても魅力的で大人も惹き込まれました。（劇団うりんこ「ともだちや あいつもともだち」より）
◎クワイアとして参加し、客席で見る以上に楽しませてもらいました。（50代女性　「山口きずな音楽祭vol.9」より）
◎描きおろしイラストなどがあってとてもテンションが上がりました!（20代女性　「コミックのなかの中也」より）
◎数日で作られたものとは思えない完成度で観ることができて光栄でした。（40代女性　「イスラエル・ガルバン　オープンスタジオ」より）

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

mini PICK UP!

特撰 落語競演会
三遊亭円楽・三遊亭小遊三

2018年4月29日(日・祝)
14:00開演(13:00開場)
会場:山口市民会館 大ホール

三遊亭円楽

三遊亭小遊三

今年も笑点メンバーによる落語会を開催します。テレビでは個性あふれるキャラクターが魅力の両師匠ですが、小遊三師匠は国際大会にも出場経験がある卓球選手、円楽師匠はお昼の情報番組など幅広い活躍が光ります。笑点の裏話をはじめ、いろいろな話が飛び出すこと請け合いです。寄席に行くには敷居が高いと思っている方、大喜利とは一味違う珠玉の日本の話芸に浸れる絶好の機会をどうぞお見逃しなく。

[チケット発売]発売中
[料金]全席指定
前売　一般 4,000円
any会員 3,600円(1会員4枚まで)

ホールにおいでませ

山口市小中学校
合同音楽発表会

2018年6月16日(土)
13:00開演
会場:山口市民会館 大ホール

昨年の発表会の様子

山口市内10校程度の小中学校が参加する恒例の合同音楽発表会が、6月に開催されます。合唱団や吹奏楽部などに所属する児童生徒たちの日頃の練習の成果を披露する場として、保護者や市民の方々にもご来場いただき、音楽を通じた交流を深めてきました。大ホールに響き渡る各学校の素晴らしい歌声や思いのこもった楽器の音色からは、演奏する楽しさや感動が伝わることでしょう。ぜひみなさまお誘いあわせのうえ、ステージで輝く児童生徒一人ひとりに温かい拍手をお送りください。

[料金]無料
[問い合わせ]TEL. 083-934-2863
(山口市教育委員会学校教育課)

影絵音楽団くぷくぷ「きんぎょがにげた」

2018年5月12日(土)　11:00開演
(10:45開場)
会場:小ホール

ガムランの音色に合わせて、歌いながらきんぎょをさがそう!

発売から40年以上小さな子どもたちから絶大な人気を誇る、五味太郎のベストセラー絵本「きんぎょがにげた」。カラフルな部屋に隠れるきんぎょを探しながらページをめくる、大人でも夢中になってしまう絵本が歌って参加できる楽しい影絵劇になって山口に登場します。原作絵本から飛び出したきんぎょが隠れるのは、南国のジャングル。そこでたくさんの動物たちと出会う冒険をインドネシアの伝統芸能を幅広いスタイルで上演する影絵音楽団「くぷくぷ」が伝統の影絵芝居ワヤン・クリで情緒豊かに描きます。ほかにもジャワ島の民話を基にした人形劇やみんなの想像力を

刺激する影絵も併演。優しい語りとガムラン楽器の不思議な調べが、みなさんを楽しい影絵の世界へお連れします。

わたしはココに注目する!
「くぷくぷ」とはジャワ語でチョウチョの意味。影絵芝居のワヤン・クリは、1000年の歴史がありユネスコの無形文化遺産に登録されているのだとか。そんな伝統的な影絵とガムランの生演奏が運んでくるインドネシアの空気を感じよう!

チケット情報　発売中
料金　全席自由　前売　おとな 2,000円(any会員 1,800円)　こども 1,500円
親子ペア券 3,000円(any会員 2,500円)　※1歳以上有料　※当日は各500円増

ベルリン交響楽団 山口公演

2018年6月30日(土)　17:00開演(16:00開場)
会場:大ホール

日本でも親しまれるオーケストラ、山口初公演!

ベルリン交響楽団は、東西に分かれていた当時の西ベルリンにおいて1966年に創設されて以降、定期演奏はもちろん、様々な教育活動にも取り組む"市民のためのオーケストラ"として愛され続けています。そんなベルリン交響楽団の山口公演が9度目の来日で実現しました。ソリストとして華を添えるのは、数々のコンクールで入賞し2002年ラフマニノフ国際ピアノ・コンクール優勝のエフゲニー・ミハイロフ。名だたる楽団との演奏で絶賛を博し、共演した指揮者たちから最高の賛辞を受けるピアノ界の至宝と称されています。創立50周年を迎え、さらなる発展を続けるベルリン響サウンドを、熱きマエストロ・シャンバダールの会場が一体となるような情熱溢れる指揮でお楽しみください。

わたしはココに注目する!
初来日のエフゲニー・ミハイロフさんは、1995年スクリャービン国際ピアノ・コンクール、翌年Gエリクソン国際ピアノ・コンクールで、審査員と聴衆の満場一致で優勝し、世界を感嘆させたピアニスト。その知的で卓越した演奏にご期待ください!

チケット情報　発売中
料金　全席指定　前売　一般　S席 7,000円／A席 6,000円／25歳以下各半額
※any会員は一般料金より各500円引き(1会員4枚まで)　※当日券は各500円増
※本誌P13で紹介の「ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2018(山口公演)」と同時購入のお客様は本公演のチケットが半額になります。

[指揮]リオール・シャンバダール　[ソリスト]エフゲニー・ミハイロフ(ピアノ)
[曲目]ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ／シベリウス:交響詩「フィンランディア」op.26／
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調「皇帝」op.73／チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 op.64

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

STRADIVARIUS SUMMIT CONCERT 2018

ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2018

1台でも数億といわれるストラディヴァリウスが11台も集結する夢のコンサートが、6月、山口・島根連携プロジェクトとして行われる。山口では、これまでに2013年、2015年に開催。私たちの想像を超える芳醇な音楽の世界に心震わされた聴衆も多いことだろう。3度目の山口公演はどんなコンサートとなるのか、演奏する"ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ"のメンバーにプログラムの聴きどころなどをお聞きした。

プログラム
モーツァルト:ディヴェルティメント　ヘ長調　KV.138(125c)
J.S.バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲ニ短調　BWV1043
チャイコフスキー:弦楽のためのセレナーデ　ハ長調　作品48　ほか

※曲目は一部変更となる場合がございます。ご了承ください。

ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ
世界最高のオーケストラ"ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団"を中心とした弦楽アンサンブル。1993年の「サミット・コンサート」開催に際して結成。99年にはベルリン・フィル当局からその名称を冠したアンサンブルとして公に認められている。

ストラディヴァリの持つ様々な音色をみなさんにお届けします。

楽器は大切な先生であり、舞台の上ではパートナー。

貴重なストラディヴァリウスが11台も集まり、総額90億とも言われています。演奏されるときいつもより緊張されますか?

いいえ!楽器の値段を気にしたことは一度もありません。私たち音楽家にとって、楽器は大切な先生であり、舞台の上ではパートナーなのです。緊張したことはないですよ、道路の左側を運転する時を除けば!

プログラムにできる限り多く、ソロの音を入れるようにしています。

今回のプログラムの聴きどころを教えてください。

このプログラムでは、"ソロ"の声を持つ5つの楽器をご紹介します。プログラムにできる限り多く、ソロの音を入れるようにしているので、みなさんは演奏家の手の中で奏でられる様々なストラディヴァリの音色を楽しんでいただけると思います。モーツァルトで幕を開け、チャイコフスキーでコンサートを終えますが、この二人の作曲家は私たちのアンサンブルの個性を表現することができます。チャイコフスキーは長年取り組んできた特別な作品です。私たちができうる最大限の可能性と、ストラディヴァリの持つ様々な色をお届けすることができるでしょう。またプログラムは長いクレッシェンドのような形であるべきだと思っています。大きな興奮の瞬間を最後に迎えるため、モーツァルトとバッハで繊細さがゆっくりと目覚め、最後には荒っぽくて素朴なキャラクターの舞曲で演奏を終えます。

日本のみなさんとは特別な繋がりを感じます。

3年ぶりの日本での演奏会、一番の楽しみは?

私たちは日本に滞在することが大好きで、日本のみなさんとは特別な繋がりを感じますし、そんな場所で演奏できることを嬉しく思っています。3年ぶりというのは長すぎますね!みなさんにお会いできずに寂しい気持ちですし、新幹線での移動や、13人全員でラーメンやお寿司を食べに行くのが恋しいです。日本には素晴らしい思い出がたくさんあり、みなさんとお話することも楽しみの一つです。もし私たちが日本語を話すことができたなら、と思います。ヨーロッパ人にとって日本語は本当に難しいのです。どうかみなさんと同じ言葉を話せないことを許してください。お会いできることを心より楽しみにしております!

公演情報

山口・島根連携プロジェクト　**ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2018**

山口公演	2018年6月2日(土)　16:00開演(15:00開場)　会場:山口市民会館 大ホール [チケット情報]発売中　[料金]全席指定　前売:一般S席 7,000円／A席 6,000円／B席 5,000円／25歳以下各半額 ※未就学児入場不可　※any会員は一般料金より各500円引(1会員4枚まで) ※当日券は各500円増(当日券はany会員割引の対象外)　※「ベルリン交響楽団 山口公演」とのセット券あり(詳しくは本誌P12参照)
島根公演	2018年6月3日(日)　15:00開演(14:30開場)　会場:島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール [チケット情報]発売中　[問い合わせ]「グラントワ」総合案内カウンター TEL.0856-31-1871　※料金・プログラム等詳細はお問い合わせください。

EVENT CALENDAR 2018.4–6

イベントカレンダー 4~6月

※掲載内容は2018年3月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

4 April

山口情報芸術センター（YCAM）
http://www.ycam.jp/

■シネマ
毎週金曜の夜に【金曜夜のYCAMシネクラブ】、日曜に【YCAM名画座】を開催しています（※休映日あり。詳細は、YCAMポータルサイトまたは『YCAMシネマプログラム』をご覧ください。）

- 1 観る 「Ryuichi Sakamoto: CODA」「花筐／HANAGATAMI」
- 6 8 観る 「花筐／HANAGATAMI」
- 13 15 観る 「花筐／HANAGATAMI」
- 7 8 観る 「欲望の翼」
- 13 15 観る 「欲望の翼」
- 中原中也を読む会 27

5 May

山口情報芸術センター（YCAM）

- 21 27 体験する YCAM Film Factory vol.4 三宅唱＋YCAM 新作インスタレーション展「ワールドツアー」（本誌P10参照）
- 4 6 参加する 「スポーツハッカソン2018」＋「第3回 未来の山口の運動会」（本誌P10参照）
- 20 22 観る 「リュミエール!」「ライオンは今夜死ぬ」
- 3 6 観る 特集「温もりのアニメーション」
- 28 30 観る 「ロバと王女」「シェルブールの雨傘」「ロシュフォールの恋人たち」
- 3 4 観る 「苦い銭」
- 29 参加する 中原中也生誕祭「空の下の朗読会」（本誌P8参照）

6 June

山口情報芸術センター（YCAM）

- 9 参加する 「不思議の国のアリス」関連企画 森山開次ダンスワークショップ（本誌P10参照）
- 19 20 観る 「サファリ」
- 26 27 観る 「サファリ」
- 18 20 観る 「リビング ザ ゲーム」
- 25 27 観る 「聖なる鹿殺し」
- 11 12 観る 「苦い銭」
- 19 20 観る 「ビジランテ」
- 25 27 観る 「ビジランテ」
- 9 10 観る 「作品未定」
- 22 24 観る 「ザ・スクエア 思いやりの聖域」（本誌P9参照）
- 28 ～7／1 観る 「ザ・スクエア 思いやりの聖域」（本誌P9参照）
- 16 17 観る 「作品未定」
- 30 ～7／1 観る 「作品未定」
- 25 中原中也を読む会
- 22 中原中也を読む会

山口市民会館
http://www.yamaguchi-civichall.com/

- 29 聴く 特撰 落語競演会 三遊亭円楽・三遊亭小遊三（本誌P12参照）
- 12 聴く 影絵音楽団くぷくぷ「きんぎょがにげた」（本誌P12参照）
- 2 聴く ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2018（本誌P13参照）
- 16 聴く 山口市小中学校 合同音楽発表会（本誌P12参照）
- 30 聴く ベルリン交響楽団 山口公演（本誌P12参照）

中原中也記念館
http://www.chuyakan.jp/

- 開催中 ～15 観る 企画展Ⅱ（後期）「山口盆地考2018.....吹き来る風が.....」
- 開催中 18～7／29 観る 企画展Ⅰ「中也、この一篇――「帰郷」」（本誌P11参照）
- 開催中 ～2019／2／17（特別展期間中は除く） 観る 第15回テーマ展示「中原中也の散歩生活」
- 29 参加する 第23回中原中也賞贈呈式 会場：湯田温泉ユウベルホテル松政（本誌P8参照）

［マーク説明］ 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ（要事前登録・24時間受付）

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

電話 チケットインフォメーション（10:00～19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日）

TEL. 083-920-6111

窓口 チケットインフォメーション（10:00～19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日）

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口 ※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では
託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

［対象］0才（6ヶ月）以上
［料金］1人につき700円、
2人目以降は1人につき500円
［時間］開演の30分前から終演後30分まで
［申込方法］公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。
事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター　キッズスペース

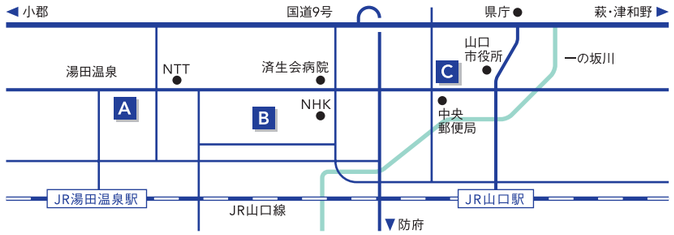
［対象］1才以上
［料金］1人につき30分200円
［時間］13:00～17:00　1回2時間まで
（山口市立中央図書館休館日を除く）
［申込方法］当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any（エニー）会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

［年会費］1,500円＋入会金500円　※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
［会員期間］入会日から翌年の入会月末まで
［会員特典］チケットの先行予約および割引購入（公演によっては適用されないものもあります）、
情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/　zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

この冬、大流行したインフルエンザ。職場でも流行りましたが、自分には無関係で、風邪もひかなかったのが自慢、と思っていたら、くしゃみを連発。うぅぅ…、今年も花粉の猛威には抗えなかった。[M.D]
前号から引き続き肩の調子が悪い。うーん、ストレッチしているのになんだろうと思っていたら、気づきました。これが四十肩か…。[T.I]
秋吉台の山焼きが終わればいよいよ春到来！幼い頃から庭のようにして育った秋吉台。今年は久しぶりにワラビ採りに出かけてみようかしら。[K.A]

A 中原中也記念館
〒753-0056　山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 ／ FAX. 083-932-6431
［開館時間］9:00～18:00（入館は17:30まで）【5～10月】
9:00～17:00（入館は16:30まで）【11～4月】
［休館日］月曜（祝日の場合は翌日）、毎月最終火曜（変更あり）、年末年始
http://www.chuyakan.jp/　chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター（YCAM）
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
［開館時間］10:00～20:00（夜間イベントのある日は22:00まで）
［休館日］火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
http://www.ycam.jp/　information@ycam.jp

C 山口市民会館
〒753-0074　山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 ／ FAX. 083-928-8488
［開館時間］8:30～17:15　［休館日］年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/

検定 答え 中也

A. 1「病気の父の見舞い」
（中也の見舞いの甲斐もなく、父・謙助は1928年5月に亡くなりました。）

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎切手やパンフレットなど、具体的に当時の風物を知ることができた。（20代女性 「中原中也の散歩生活」より）
◎トークセッションに参加し、ずっとやりたかった夢を思い出すことができ、久々にわくわくしました。（20代女性 「HELLO,YCAM!」より）
◎出演者のみなさんが自分の演奏をとても丁寧に心を込めて届けようとしている想いに溢れていた。（50代女性 「山口きずな音楽祭vol.9」より）
◎自分の体、身体感覚を一旦リセットされる圧倒的な内容でした。（40代女性 「The Other in You―わたしの中の他者」より）

公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion